

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300021		
法人名	株式会社ユニマツ・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)		
所在地	京都府京都市中京区壬生天池町24番地		
自己評価作成日	2019年12月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvCd=2690300021-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvCd=2690300021-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和 2年 1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの方に合った暮らし、サービスの提供を考え、楽しみをもって頂く事を大切に介護致しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームそよ風は、JR山陰本線二条駅から徒歩7~8分の静かな住宅街にある複合型事業所で協働して運営されています。ユニマツの理念は『私たちは、世界一の「しあわせ創造企業」を目指します。』とし多くの企業を運営されています。そよ風すみれユニットは「1日笑顔で過ごします♪」を全職員が話し合っって作成した理念としています。介護度の高い方も全員に笑顔になっていただきたい思いを込めて日々のケアに努められています。開設来13年目を迎え入居者の高齢化が進み、すみれの平均年齢は88歳、たんぼぼの平均年齢は93歳、最高齢者95歳が2人、平均介護度3.3~3.2の状況です。今年度は特に入居者に「嬉しい」「楽しい」の思いになってもらい笑顔が出るような支援の一つに職員のパワーを結集して計画的な外出支援を実施され入居者を大事にされる職員の心意気を感じました。入居者は穏やかな表情で過ごされていました。過去1年間を通して退職職員は皆無です。働きやすい職場環境を提供され職員を大事にされている証と感じました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、世界1の幸せ創造企業を目指しますより各ユニットで理念を掲げ、すみれユニットでは1日笑顔で過ごしますとし介護度の高い方から低い方まで皆様1日1回は必ず笑顔になって頂きたいと、笑い声の聞こえるユニットを目指しケアを致しています。	会社の理念に基づきすみれユニットは「一日笑顔で過ごします」と理念を定めている。一人ひとりの介護度に関わらず全入居者に一日1回は必ず笑顔になっていただきたい思いを込めて全職員が話し合って作成し実践に努めている。	「理念」とは、企業理念や営業理念など一般的に大きい意味に用いられている。事業所は地域密着型サービスの意義を踏まえた「事業所理念」を作成し、各ユニットはそれを実践するための「目標」と目標の達成手段としての項目など作成されては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の社会学習のそよ風でどんな所、何する所の勉強のお手伝いを今年も受け交流した。運営推進会議は民生委員さんも積極的にお話して下さり地域の課題や思いが分かりあえた。	自治会に加入し回覧版などから地域の行事を把握し入居者は運動会や地藏盆などに参加している。近隣の保育園児や小学生の福祉学習などの訪問を受け楽しい交流がある。現在傾聴ボランティアを受け入れているが今後はボランティアの訪問を多くし入居者に変化のある楽しい日々を支援したいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の症状や事故、ヒヤリハットの報告でどのような対応を職員が行っているか理解を広げるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	質疑応答の時間を設け話し合っている。参加できない方については案内文に質問、意見記入欄を設けている。	会議には、入居者、家族、民生児童委員、地域包括支援センター職員、センター長、管理者などが参加している。事業所は入居者状況(入退去や看取りも含め)行事、研修、事故、ヒヤリハットなどを報告している。事故については改善策も報告し安心を提供している。昨年の大きい自然災害の襲来に伴い避難場所や避難方法など話し合われているが、地域との話し合いが肝心であることに気づき今後の方向性を認識している。	ヒヤリハットについても事故につながらない方策を明記されると職員の意識に深く浸透するのではないかと。議事録を読まれた方にも改善策が伝わり安心の提供につながると思われます。会議の構成メンバーには地域の老人会やボランティアグループ代表、駐在員、時には消防署員などにも依頼すると幅広い地域情報や協力が得られると思われます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議録を提出し、分からない事がある場合は訪問や電話で随時問い合わせをしている	区役所の担当課に運営推進会議の議事録を持参しているが、その場で相談や助言を求めたことは少ない。不明な事案は電話で応じてもらっているので信頼関係は築けている。	区役所訪問は時間調整など厳しい場合もあると思われるが、訪問時はコミュニケーション題材を準備して対応し担当職員に事業所「そよ風」を印象付ける積極的な取り組みは如何でしょうか

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないと事業所での取り決めが有り入職時には必ず研修を行なっている。玄関は命を守る観点より施錠しているが職員の付き添いがあれば一緒に外気浴、散歩を楽しんでいる	会社(ユニマット)は「身体的拘束等の適正化のための指針」を小冊子にまとめている。デイサービス事業所と共同で身体拘束廃止・虐待防止委員会を年4回開催し、職員研修は年2回行い職員の意識を高めて支援している。「チョット待って」の前にその「わけ」を伝えて理解を得るように努めている。外に出たそうな様子があれば職員と一緒に付き添って出ている。玄関は安全優先で常に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は疑いも含め重大な事故と位置づけている。研修を行い職員の意識向上を図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行なっている。キーパーソンが後見人の入居者様も増えてきており職員にとっては特別な事ではなくなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明、不明な点はいつでもお電話等で問い合わせ頂くよう声かけしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には必ず声かけし意見や要望を聞き取るようにしている	家族の面会時は意見を聞きだす機会として職員は臨んでいるが感謝の気持ちや個別的なケアについての会話が深い。運営推進会議の出席時にショートステイ事業に対する質問や独居者の災害時の避難場所として受け入れ可能か否かなど質問し説明を受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や全体会議で意見を交換するようにしている	朝夕の申し送り時など日常的に何でも言いやすい雰囲気があり意見がよくでている。ユニット会議や全体会議でも意見交換をしている。入居者の笑顔が多く見られる行事食の計画やケアの方法などを話し合っって試行錯誤しながら実践している。年1回の人事考課時も意見を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いを聞き環境の整備に努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て月に1度のペースで実施している。日常のケアの様子より指導する事も有る		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で毎月協議会を開き職場見学、意見交換、情報交換の場を設けている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に心身状況を記入する用紙を渡している。本人、家族との面談での聞き取り、居宅ケアマネ、病院相談員より情報収集をし職員間で共有するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で十分な聞き取り、相談、提案を行い関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の訴え、家族様からの情報から必要なサービスを見極め提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の得意とする事、好きな事を日常的に依頼するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を詳しく伝え、本人様の困りごとの解決の助言を頂くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お知り合い、友人等の面会時にはゆっくりくつろいで頂けるよう、面会カードと共にお茶を提供している	以前の住居周辺をドライブしたり嵐山や二条城など馴染みの場所として外出レクで行っている。馴染みのパン屋やイノダコーヒーに個別レクで外出し店員から声掛けに「また来るね」と会話している。このような関係が続くよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング席をたまに席替えし違った方ともお喋りの機会を持って頂くようにしている。職員も間に入り話を持ちかけるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談の窓口の紹介を行い不安なく次へ移れるようしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は関りの中で入居者の言葉や表情サインを読み取り意向に添うよう努めている	入居決定時に訪問して、本人や家族からその人の成育歴や心身の状況、今後の生活への意向などを聞き取り実態調査表に記録している。居宅の担当介護支援専門員からの情報も取り入れて、一人ひとりの望みを叶えるように支援している。意思表示が難しい場合は家族に尋ねたり仕草や表情から推察し、それを申し送り時などで共有し見逃さないように努めて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活歴や大きな出来事の聞き取りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の様子を記録している。普段と違った言動があれば申し送るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が3ヶ月毎にモニタリングを行いプラン作成時には会議を行なっている。また家族には面会時に声かけ要望を確認している	生活や医療情報も記載している実態調査表からアセスメントしてモニタリングにつないでいる。介護支援専門員が介護計画を作成しサービス担当者会議前に電話で家族の参加意向を聞き取り、不参加なれば介護計画を説明し更に意見も聞き取り了解を得ている。介護計画には入居者の好きな塗り絵や楽しみ思いなども取り入れている。安定状況には6か月、変化があれば3か月ごとにモニタリングして計画の見直しを行っている。入居者の急な変化にも応じて随時現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、食事量、排泄、服薬、入浴、気分様子を記録。確認し気分的な事はこうしたら上手くいった等は申し送っている		

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に動ける人材、その場で話しあい対応できる人材の育成に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療、娯楽の訪問サービスを受け安心して生活出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時かかりつけ医の確認と協力医療機関の紹介をし自由に選んで頂く。	かかりつけ医を継続受診するか否かは本人や家族の選択とし現在は2名の方がいる。かかりつけ医受診時は家族同伴とし本人の状況を書面で伝え医師からの指示をもらい情報を共有している。入居者は週1回協力医(精神内科も含め)の往診と月1回歯科医の訪問を受けている。週1回歯科衛生士による口腔ケア指導があり入居者は毎日3回歯磨きをして口腔ケアに努めるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医院、薬局、ディサービスの看護師に相談出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療医院の連携病院に入院となっており、入院先主治医、訪問診療DR、Nsと家族を含め入院病院で話し合いの場を持つ事が出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りに関する指針にサイン頂いている。重度化した場合は家族、医師、職員で話し合いの場を持ち今後の方針を決めている	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を定め入居時には本人や家族に丁寧に説明し納得の上確認印をもらっている。重度化への変化の都度家族と協力医と職員が話し合い今後の方針などを共有する機会を持っている。看取りに関しては職員研修を重ね適切なケアができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故、行方不明のマニュアルが有り 応急手当、連絡はマニュアルに沿って行動する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は日中と夜間の設定で年2回行なっている。併設施設との合同訓練も行い年1回は消防に立ち会って頂いている。	併設の3事業所が合同で火災による避難訓練を実施しグループホームでは入居者全員を1階へ誘導避難させている。職員の動きや避難経路の確認、消火器の使い方などを行っている。他事業所職員の臨時応援者との連携が十分ではなく課題を残している。災害時の職員のフローチャートや自然災害(水害、地震)マニュアルを作成している。備蓄は食料や水、ケア物品など他確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時では他者に本人が特定できないよう言葉を選んでいる。個人の尊厳を大切に研修も行なっている	運営規程には「利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供…」を明記している。職業倫理の研修を行って職員に啓発している。引き継ぎ時には個人が特定されないよう配慮している。一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないよう配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者への話しかけを日常的に行い思いを聞き取るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で思い通りに動かすケアをしない。相手の気持ちを理解し尊重してどう接したら安心してもらえるかを第一に考えケアを行なうよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の支援、また入浴時時は一緒に衣類を選び好みの傾向を掴むようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事がたくさん摂れなくなった方には家族と話し合い好物や食べられる物を食べられるだけ多く提供している。	本社の管理栄養士が作成した献立表に沿っているが、残存食材の事情もあり多少アレンジして小皿2個の野菜が摂取できるよう努めている。刻み食3人、流動食(ペースト状)2人、栄養補助液使用1人(たんぼぼ4人)と重度化しているが全面的な食事介助者はなく自ら食べようとする気持ちを持っている。食餌量が減少傾向の方には家族と話し合っ本人の好物や食べやすい食品も選んで支援している。入居者は座った状態で食材を刻んだりテーブルを拭いたりできることをしている。行事食は仕出し出前を取ったり個別の食事外出も支援し職員の努力が見える。	

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に1日の水分、食事量を記録し確認している。各自に応じた刻み方、トロミの補充をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施している。訪問歯科とも連携をとり汚れの残りやすい箇所などの磨きかたの指導を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握しパターンにあわせたトイレ誘導を行なっている	一人ひとりの排泄パターンに添ってトイレでの排泄を支援している。一人のみほほ自立の方があり、昼夜を通してポータブルトイレを使用される方もある。入居者の僅かな仕草や目線の変化をキャッチして支援し気持ちよく過ごしてもらえる時間の確保に努めている。誘導時は周囲に知られないよう小声で支援している。特に支援中に排便ショック症状を呈される方には細心の心配りをして支援している。全般に改善は難しく低下しないよう現状維持の継続に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便となるよう起床時に乳製品を摂って頂いている。出にくい時にはお腹を温め排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日に3人程度の入浴とし、お1人入るとお湯を入れ替えている。職員と会話しながらゆったり入浴を楽しんで頂いている	入居者には週2回の入浴と同性介助を基本としているが実際は難しい。1日に3人の入浴を計画し1対1で支援している。入居者はゆっくり入って職員との会話を楽しみにしている。拒否される方には試行錯誤で対応し週2回の入浴を確保している。季節湯(しょうぶ湯)は以前危険なことがあったので今は止めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体力を考慮しお昼寝が必要な方は誘導している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を確認できるよう設置している 追加薬が有れば何故必要なのか申し送りで共有している		

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせた気分転換、役割作りを心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制上その場ですぐ戸外に出るのは難しい場合がある。レク企画として予定を組み外出の機会を作っている	年間行事計画には季節ごと(花見や紅葉、祇園祭ドライブ)の外出や入居者の意向を聞き取り外食、喫茶、ドライブ、ショッピングなどの外出レクを支援している。天気の良い日は職員と一緒に外気浴や散歩を楽しんでいる。個別外出では非日常的な緊張感と楽しみを支援している。介護度の高い方への日常的な支援は難しいが計画的に職員を融通して入居者の楽しみな外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を理解出来る方は極少数、理解できても管理は困難な為買い物レクは職員が必要分手渡しレジで清算出来るよう介助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の受け渡しをしている。電話口で要望があれば本人様と代わってお話して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを行なっている。臭いについては消臭スプレーを常備し気を配っている。音や光については個人差が多く居室で思いのままにして頂いている	リビングは採光が良く明るい。フロアーは入居者の移動に支障がないよう配慮し物を置かず整然、広々としている。角を丸くしたほぼ90cm正のテーブルに入居者一人づつが座り塗り絵など好きなことができるよう工夫している。テーブルはゲームや行事に必要な大きさに合わせて使える柔軟な知恵がある。キッチンからは入居者の様子が視野に入り、みそ汁や煮物の匂いが伝わってくる家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空いている座席で座って過ごしたり、居室で他者と一緒にお話して過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく今までと同じようなお部屋にして下さいとお願いしている。家具の持込や季節によって家族様が小物の飾りつけをしておられる	居室には、エアコン、介護用ベッド、クローゼット、カウンター(車いす使用可)を備え広いスペースを確保している。クローゼットは大きく相当量の収納ができる。防災カーテンは入居者が負担している。カウンターには家族や夫の写真、好みの縫いぐるみ、電子時計などを置いている。マリヤ像を置き心の安らぎを得られている様子が伺え、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	目印を作ったり置き場を工夫し分かりやす いようにしている		